

CIFER Osaka Bay設立記念シンポジウム

「これからの大阪湾再生を考える～様々な主体の参画と連携～」の概要

- 主催：一般社団法人大阪湾環境再生研究・国際人材育成コンソーシアム（CIFER）・コア
- 日時：平成25年5月27日（月）14:00～17:00
- 場所：さかい新事業創造センター“S-CUBE”多目的会議室
(〒591-8025 堺市北区長曽根町130番地42)
- 参加者：75名（CIFER・コア会員、CIFER Osaka Bay会員、行政関係者、大学関係者、一般参加者）
- プログラム（都合により、事前にご案内した講演者等を一部変更しました）
 - 開会挨拶 CIPHER・コア理事（大阪府立大学大学院教授）大塚 耕司
 - 講演
 - (1)CIFER の目指す大阪湾再生への道
CIFER・コア理事（大阪府立大学大学院教授）大塚 耕司
 - (2)フェニックスの護岸形状と沿岸生物
大阪湾広域臨海環境整備センター環境課長 角田 康輔
 - (3)りんくうタウンにおけるアマモ場の造成
一般財団法人沿岸技術研究センター 調査役 稲田 勉
 - (4)大阪湾見守りネットの活動紹介ー楽しく、元気に、ほんまもの取りくみを！
大阪湾見守りネット 代表 田中 正視
 - (5)パネルディスカッション
 - コーディネーター(Co)CIFER・コア理事（大阪府立大学大学院教授）大塚 耕司
 - パネリスト(P) 大阪湾見守りネット 代表 田中 正視
一般財団法人沿岸技術研究センター調査役 稲田 勉
CIFER・コア 理事（堺市参与）横山 隆司
CIFER・コア 特別研究員 中西 敬
 - 閉会挨拶 CIPHER・コア理事（大阪市立大学大学院教授）矢持 進



S-Cube多目的会議室

■概要

(1)CIFERの目指す大阪湾再生への道

東京湾に1年遅れたものの、2004年に「大阪湾再生行動計画」が策定された。当法人の発起人の一人である堺市長は、地先の海の再生を願って名を連ねたと聞いている。大学でも学生をフィールドである海に連れていくと意識が変わる。当法人が核となって4月に設立したコンソーシアムで海の再生を進め、再生活動を産業化することにも努めたいのでご協力をお願いしたい。

[〈PDF資料：CIFERの目指す大阪湾再生への道〉](#)



CIFER・コア理事 大塚 耕司
(大阪府立大学大学院教授)

(2)フェニックスの護岸形状と沿岸生物

大阪湾フェニックスセンターは昭和57年3月に設立され、近畿2府4県の168市町村(近畿圏の全面積の約63%、全人口の約96%)の廃棄物を海面埋立処分している。平成18~22年度に大阪湾センターが4処分場の直立・傾斜・緩傾斜護岸において実施した全周調査、測線調査の結果を説明。中島川(神崎川)河口に位置する尼崎沖(埋立処分場)では海藻類は少なく、ムラサキイガイが卓越。泉大津沖は春にはワカメの植生が見られた。神戸沖・大阪沖はホンダワラ類の藻場が形成されていた。特に大阪沖はエスチュアリー循環(河川水が流入する内湾の密度差から生じる水循環。上層は湾奥から湾口、下層は湾口から湾奥への流れが発達)の影響か表層の塩分低下が著しくなかった。

また魚類等も調査しているが、尼崎沖は海藻類だけではなく魚類等も少なかった。

今後も調査を継続するとともに、付着動物の簡易定量分析から主要海藻分布量の評価精度を向上させたい。

[〈PDF資料：フェニックスの護岸形状と沿岸生物〉](#)



大阪湾広域臨海環境整備センター
環境課長 角田 康輔

フェニックスの護岸形状と沿岸生物



(3) りんくうタウンにおけるアマモ場の造成

横浜の工業地帯を舞台にTOKIOが出演するテレビの「ダッシュ海岸」を例えにとりながら、会場でアマモを知っている人を確認すると意外に少なかった。砂地の海岸浅場で葉から出る酸素の気泡をつけたアマモの写真を見せながら、アマモはナーサリー（保育場）としてアオリイカやコウイカの産卵場、メバルの稚魚の隠れ場所になっていることを説明。稲田氏は今春まで東洋建設(株)に勤務し、平成15年から大阪湾をはじめ東京湾、博多湾等全国各地でアマモ場の造成に関わってきた。

北から泉佐野、泉佐野東、田尻、岡田浦、樽井の5漁業協同組合がそれぞれポケットマネーを出し、地先の海岸でアマモ場の造成を10年間続けてきた。平成20年からは、田尻町立小学校5年生が総合学習の一環としてアマモ場づくりに参加している。アマモは雄花と雌花をつけ神秘的と語りつつ、大阪で久しぶりに食べる蓬莱の551のシュウマイは美味しかったとも語られた。

[〈PDF 資料：りんくうタウンにおけるアマモ場の造成〉](#)



一般財団法人沿岸技術研究センター
調査役 稲田 勉



(4) 大阪湾見守りネットの活動紹介ー楽しく、元気に、ほんまもんの取りくみを！

いつもは活動的なスタイルの田中氏が、本日は企業関係者が多いと聞いてスーツ姿で登場。先の講演者である稲田氏にはアマモだけでなく、いろんな種まきをしていただき、樫井川の保全活動に参加する生徒が自生するアマモを調査したり、ナメクジウオの住み場所を発見したりと発展しているようだ。

大阪湾見守りネットは、平成17年2月に国土交通省が主催した「ほっといたらあかんやん！大阪湾フォーラム」に集ったメンバーを中心に、「魅力と活力のある、美しい大阪湾」などを目指すゆるやかなネットワークとして同年11月に設立。この指と〜まれで集まったのは行政、研究機関、漁協、企業、NPOなど。楽しくなければ、ほんまもんにならない。この考えでいろんな活動や情報発信を進めているが、最大は「大阪湾フォーラム」の開催で今年度は10回目の節目。「ほっとかへんで瀬戸内海！」の実行に向けて、これまでの活動の総括年になる。

[〈PDF 資料：大阪湾見守りネット](#)

[楽しく、元気に、ほんまもんの取りくみを！〉](#)



大阪湾見守りネット
代表 田中 正視



(5) パネルディスカッション



(Q1) 大阪湾に先駆け再生行動を進めた東京湾はどのくらい進んでいるのか。どう違いがあるのか。

(P) 東京湾では企業を含めた多様な主体が参画した組織づくりをしている。大阪では言いっ放しが多いと感じる。東京は緩やかな連携という感じだが、言い出したことは自分でやるという雰囲気がある。

(会場) 貧酸素水塊や赤潮発生など湾の症状はほぼ同じ。大阪湾の方が水質一斉調査も生物一斉調査も早くから実施しているが、東京湾の方は、水質一斉調査は遅れて始まったものの生物一斉調査はいまだに実施していない。見守りネット参加者と一般では違うが、両湾とも海に親しんでいない人が多い。海に親しむ人を増やすことが、見守りネットの次の10年の課題かと思う。

(Co) 大阪湾見守りネットでは今後の取組をどのように考えているのか。

(P) 大学生・院生が小学生の前で活動する場をつくるのは大人の役割だ。また、日本だけに止まらず、インターネットなどを使ってアジアや太平洋にも輪を広げるべきだ。

(P) 地域性をいえば、東京は公が強い、ルールや組織づくりがうまい。伊勢湾の活動では必ずT社が出てくる。大阪湾は言いっぱなしで、この指とまれ方式だが、10年たった今では大阪の活動は地に足がついた感じがする。当法人の活動会員企業の本業と結びついたものが重要だ。

(P) 明治以来、海の仕事は国が主導してきたが経済が低成長期に入り、また3.11以来、特に海の環境の予算がなかなか付かない状況である。また大阪湾再生の点では民間企業との協働という点で少し行き詰まっているとも聞いている。大阪府では堺と岸和田で干潟造成事業を行っているが、特に岸和田では、関西電力が堺にLNG基地を建設した際に発生した浚渫土を活用して、公共のお金(税金)を使わず、短期間で干潟を完成させることができた。このように民間の企業と一緒に従来は無駄になっていた材料などを有効活用して海の環境再生を推進する。それがCIFERの特徴であり役割だと思う。

(Co) これまでバラバラだった産学官民がそれぞれの働きを進めつつ、まとまるのが大事だ。

(P) 高度経済成長期、大阪湾は土地の供給元として利用されてきた。今後、リサイクル、エネルギー供給としての役割が重要で、新テーマは「再生」だと思う。

(会場) 見守りネットの活動の火をつけたのは国土交通省だと思う。CIFERは堺市中心の活動のように思うが、国はどうなっているのか。

(P) 堺北泊地の環境改善のベースとなる堺浜の潜堤造成事業は7、8億円かけた国事業である。名

古屋で生物多様性に関する国際会議が開催され、環境保全への配慮が進むと思っていたが、大震災で環境保全配慮の流れが変わり、当法人の会員募集にも影響が出ているのではないかと感じている。復興事業でも環境配慮を加味すると 20~30 年後の環境に大きな変化が出ると思う。大阪でも地震対策として防波堤等強化が求められているが同じことがいえる。

(Co) 環境保全は子供から輪を広げることが大事。当法人では大学連合を考えているが、大学生だけでなく小中学生にも輪を広げたい。大学関係者のご意見は。

(会場) 大学連合の準備会合を進めているが、複数の大学が一つのことを共同でやるのはなかなか難しい。平成 26 年度にいくつかのヤマが出てくるのではないかと。大学生だけではなく、中高、小学生にも狙いを定める必要がある。

(P) 笹子トンネル事故を受けて緊急点検が行われているが、港湾の維持管理でも同様の取組が今後行われ、大きなマーケットになると思われるが、環境にやさしい要素が必要だ。博多湾では小学生対象に海の学習のモデル校づくりが行われているが、堺浜でもできないかと思う。

(Co) 愛知の蒲郡でも 8 年前から小学校の総合的学習で環境教育を実施しており、当初 1 校だったものが 7 校になっている。山のほうにある学校も参加している。

(会場) 話を聞いていて、りんくうタウン事業に携わっていた頃のことを思い出した。漁師さんもアマモ場づくりに取組んでいると聞いたが、重要なことだ。かつての同僚と阪南 2 区の干潟観察のボランティア活動をした際に子供たちが喜んでいた姿が印象的だった。

(P) 阪南 2 区、堺浜でも子供に参加していただくためにはバス代や保険が必要。本日設立記念シンポジウムを開催したコンソーシアムは一般参加の会費が 3000 円で、そんなことにも会費が使えないかと思っている。また、大阪だけでなく兵庫の漁業関係者にも働きかけているが反応が変わってきた。

(Co) 環境再生は、皆総論賛成だが、各論で立場によっていろんな意見が出る。合意形成のためのコミュニケーションを進めるためには環境取組に関する考えをわかりやすく翻訳する人が必要。そのための基盤づくりをどうするかだ。

(P) きっちりしたものを創ろうとすると失敗する。見守りネットは多彩な便利屋さんの集まりみただが、事務局は大変だ。

(P) 見守りネットの事務局は忙しすぎて死にそう。一部の事務局に無理のかからない基盤ができればよいのだが、次の人づくりのためにも知恵を貸してほしい。

(P) 企業が会員としてこの組織に入るには何らかのメリットが必要だ。

(P) 我慢強く継続することが肝要ではないか。いくつかの事例で参加企業の事業がうまくいき、それが環境再生にも繋がればよい。この法人の会員になったからといって、じっと口を開けるだけではなく、自ら食いついていただく意思を持って参加していただくような場にしたいと思う。



閉会挨拶

本日は75名のご参加をいただき、また活発な議論で盛況であった。大阪人はラテン的で、東京はアングロサクソンのとよく言われる。当法人、コンソーシアムともにスタートしたばかりであるが、楽しく元気に議論しながら大阪湾の環境再生に向けて取り組んでいきたい。

今年は「大阪湾 years」で再生行動計画の見直しが必要。海の再生の全国会議は、経団連が後押しして東京で開催されてきたが、今年はぜひ大阪で開催したい。また、7月14日から21日まで須磨水族園でイベントが開催されるし、海の教室が大阪湾の両端の明石市と岬町で開催され、大阪市内で連続的なフォーラムもある。当法人では大阪湾再生と関連した産業活性化、環境産業育成を進め、ワーキングで企業にプレゼンをしていただき、企業と連携したプラットフォームづくりに努めたい。



CIFER・コア理事 矢持 進
(大阪市立大学大学院教授)

■アンケート結果

[〈PDF 資料：アンケート結果〉](#)